

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成21年2月6日

上場会社名 株式会社 セリア  
 コード番号 2782 URL <http://www.seria-group.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画室長  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

(氏名) 河合 宏光  
 (氏名) 河合 映治

TEL 0584-89-8858

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第3四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	51,646	—	1,494	—	1,510	—	833	—
20年3月期第3四半期	47,719	6.6	2,092	△14.5	2,141	△14.2	1,030	△17.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	10,995.55	—
20年3月期第3四半期	13,585.23	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	31,320	9,609	30.7	126,704.52
20年3月期	24,028	8,979	37.4	118,399.36

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 9,609百万円 20年3月期 8,979百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	2,500.00	2,500.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	2,500.00	2,500.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,500	6.8	1,700	△25.8	1,750	△25.9	850	△27.6	11,207.80

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 75,840株 20年3月期 75,840株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 1株 20年3月期 1株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年3月期第3四半期 75,840株 20年3月期第3四半期 75,840株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想につきましては、平成20年10月28日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

3. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間のわが国経済は、海外経済の減速や為替円高を背景に輸出が大幅に減少し、設備投資も大幅に減少するなど、景気は大きく悪化しました。企業収益は悪化を続けており、景気の先行きについては、当面悪化を続ける可能性が高いものと見られます。

小売業界におきましては、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、個人消費は弱まっており、消費者態度指数等の消費者心理を表す各種統計も著しい悪化を示すなど、先行きについても予断を許さない、極めて厳しい環境下にあります。

このような状況のなか当社は、セリアブランド構築に向けた土台づくりをテーマとして、最適オペレーション構築に向けた詳細な取り組みに注力するとともに、持続的に活性化しつづけるためのグランドデザインづくりを進めております。直営既存店売上高につきましては、前年同期比98.7%となり、出退店につきましては、採算性を精査しつつ前向きに進め、出店が直営店80店舗、F C店10店舗、退店が直営店22店舗、F C店16店舗と概ね計画どおり推移しており、当第3四半期末の店舗数は、直営店812店舗、F C店131店舗の合計943店舗となりました。

一方、仕入原価につきましては、プラスチック原材料高等の影響は沈静化に向かっており、足元では上昇傾向には歯止めがかかったものの、全般的には高めで推移しております。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は516億46百万円（前年同期比8.2%増）、経常利益は15億10百万円（前年同期比29.5%減）、四半期純利益は8億33百万円（前年同期比19.1%減）となりました。

なお、前年同四半期増減率は参考として記載しております。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

#### (資産の部)

当第3四半期末における総資産は、前期末に比べ72億91百万円増加し、313億20百万円となりました。流動資産は、現金及び預金が30億25百万円増加し、新規出店や売上増加により商品が3億6百万円増加しました。固定資産は、リース会計基準の適用などにより28億46百万円増加しました。

#### (負債・純資産の部)

負債の部では、リース債務が新規に17億59百万円計上され、長期借入金（流動・固定合計）が2億29百万円増加しました。

純資産は、前期末に比べ6億29百万円増加し、96億9百万円となりましたが、自己資本比率は前期末から6.7ポイント低下し30.7%となりました。

#### (キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下、資金といたします。）の残高は、前期末に比べ30億55百万円増加し、52億93百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、53億67百万円のプラスとなりました。これは、税引前四半期純利益の計上17億38百万円、減価償却費12億51百万円および仕入債務の増加41億21百万円などで資金が増加したことに対し、減少は預け金の増加4億77百万円、たな卸資産の増加3億6百万円などにとどまったためであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、18億59百万円のマイナスとなりました。これは、新規出店に係る有形固定資産の取得等10億58百万円及び差入保証金の差入7億20百万円などにより資金が減少したためであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、4億44百万円のマイナスとなりました。これは、長期借入れによる収入21億円による資金増加に対し、減少は長期借入金の返済18億70百万円及びリース債務の返済による支払額4億84百万円などにより資金が減少したためであります。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

平成20年10月28日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

#### 4. その他

##### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

- ・当第3四半期累計期間末の貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
- ・当第3四半期会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前事業年度末ないし第2四半期会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。
- ・税金費用については、当第3四半期累計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

##### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ・当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。
- ・通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。この変更による損益への影響はありません。
- ・所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する事業年度に係る四半期財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。この変更による損益への影響は軽微であります。

##### (追加情報)

従来、地代家賃については支出時に費用処理しておりましたが、相対的に重要性が増しつつあり、今後も増加が見込まれるため、当第3四半期会計期間より未経過部分について前払費用処理、経過部分については未払費用処理することとしております。

この結果、従来の方法によった場合に比べ 当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益は15百万円増加し、税引前四半期純利益は3億54百万円増加しております。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成20年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,140	3,114
売掛金	722	514
商品	9,458	9,151
預け金	1,526	1,049
その他	649	216
貸倒引当金	△71	△65
流動資産合計	18,426	13,980
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,910	2,507
その他(純額)	3,214	1,557
有形固定資産合計	6,125	4,064
無形固定資産		
	607	525
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,246	4,727
その他	1,090	914
貸倒引当金	△176	△183
投資その他の資産合計	6,160	5,458
固定資産合計	12,894	10,048
資産合計	31,320	24,028
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,674	5,552
1年内返済予定の長期借入金	2,475	2,335
未払法人税等	365	479
賞与引当金	60	147
その他	2,676	1,375
流動負債合計	15,251	9,890
固定負債		
長期借入金	4,824	4,735
退職給付引当金	60	50
役員退職慰労引当金	235	234
その他	1,338	138
固定負債合計	6,459	5,159
負債合計	21,711	15,049

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成20年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,278	1,278
資本剰余金	1,419	1,419
利益剰余金	6,942	6,298
株主資本合計	9,640	8,996
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△31	△16
評価・換算差額等合計	△31	△16
純資産合計	9,609	8,979
負債純資産合計	31,320	24,028

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	51,646
売上原価	31,542
売上総利益	20,104
販売費及び一般管理費	18,610
営業利益	1,494
営業外収益	
受取利息	12
受取配当金	2
受取賃貸料	42
受取補償金	36
その他	23
営業外収益合計	115
営業外費用	
支払利息	62
貸倒引当金繰入額	14
その他	21
営業外費用合計	99
経常利益	1,510
特別利益	
前期損益修正益	339
固定資産売却益	0
特別利益合計	339
特別損失	
固定資産除却損	13
減損損失	94
その他	4
特別損失合計	111
税引前四半期純利益	1,738
法人税等	904
四半期純利益	833

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	1,738
減価償却費	1,251
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△87
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	10
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	0
受取利息及び受取配当金	△14
支払利息	62
為替差損益 (△は益)	6
有形固定資産除却損	13
減損損失	94
前期損益修正損益 (△は益)	△339
売上債権の増減額 (△は増加)	△207
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△306
預け金の増減額 (△は増加)	△477
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,121
未払消費税等の増減額 (△は減少)	78
その他	479
小計	6,421
利息及び配当金の受取額	7
利息の支払額	△59
法人税等の支払額	△1,002
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,367
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△30
定期預金の払戻による収入	60
有形固定資産の取得による支出	△1,058
無形固定資産の取得による支出	△173
投資有価証券の取得による支出	△100
差入保証金の差入による支出	△720
差入保証金の回収による収入	198
その他	△35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,859
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	2,100
長期借入金の返済による支出	△1,870
リース債務の返済による支出	△484
配当金の支払額	△189
財務活動によるキャッシュ・フロー	△444
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,055
現金及び現金同等物の期首残高	2,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,293

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期損益計算書

前第3四半期累計期間(平成19年4月1日～平成19年12月31日)

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	47,719
II 売上原価	28,782
売上総利益	18,936
III 販売費及び一般管理費	16,843
営業利益	2,092
IV 営業外収益	115
V 営業外費用	66
経常利益	2,141
VI 特別利益	3
VII 特別損失	57
税引前四半期純利益	2,088
税金費用	1,057
四半期純利益	1,030

6. その他の情報

該当事項はありません。